
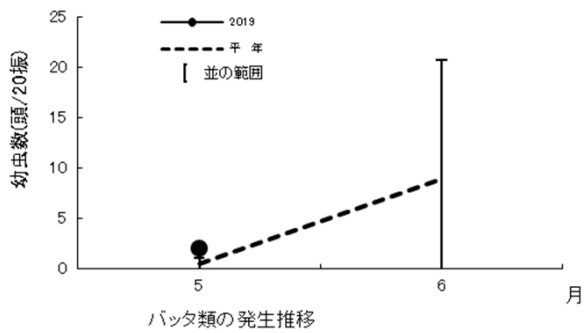


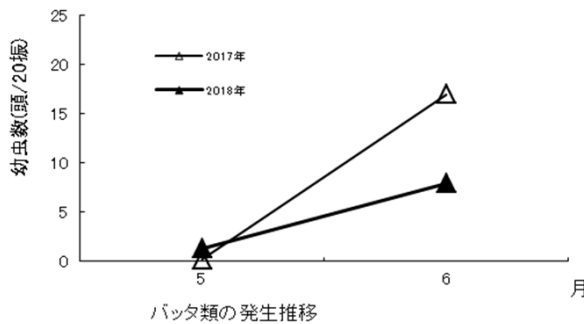
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① バッタ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

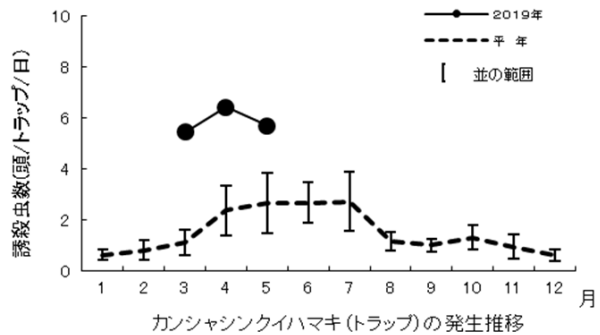
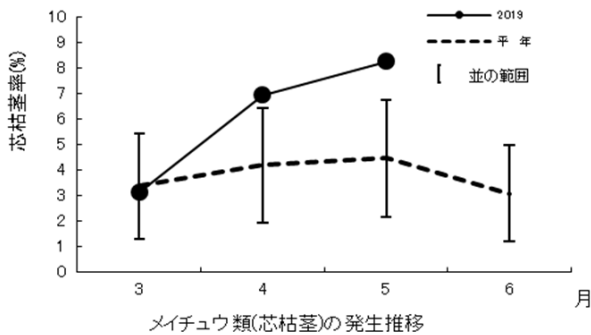


防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓) トラップ誘殺虫数が平年より多い	

調査結果




さとうきびメイチュウ類調査結果

地域名	芯枯率 (%)	幼虫数/人/5分	カンシャシクイハマキの割合 (%)
沖縄本島	8.3	13	98
伊江島	13.28	9.25	95

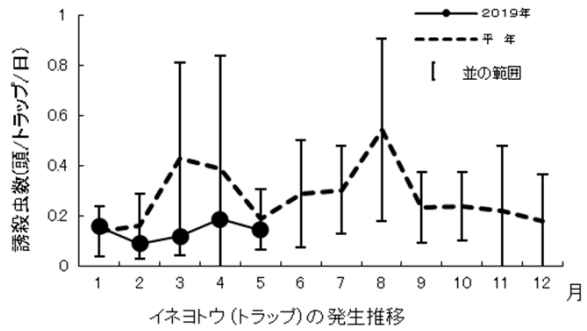
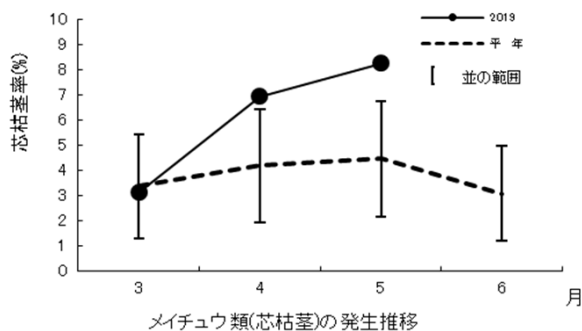
- ※ メイチュウ類の98%がカンシャシクイハマキであった (沖縄本島)
- ※ 病害虫防除員報告 : 多発生 (久米島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果




さとうきびメイチュウ類調査結果

地域名	芯枯率 (%)	幼虫数/人/5分	イネヨトウの割合 (%)
沖縄本島	8.3	13	1.9
伊江島	13.28	9.25	5

- ※ メイチュウ類の2%がイネヨトウであった
- ※ 病害虫防除員報告：多発生（久米島）

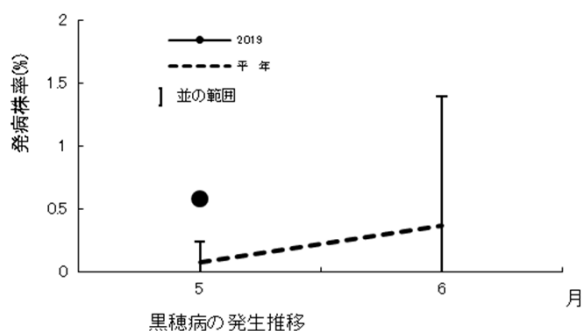
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

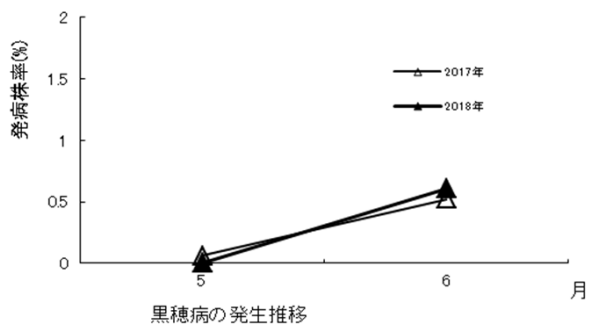
作物	さとうきび		地域	沖縄本島	
病害虫名	④ 黒穂病				
予報	6 月の発生量 (平年比)	多			
	5 月からの増減傾向	↗			
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	多			
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)			

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。